

來會者約四千と註せられ

安田講堂の階上階下を

埋め盡す

第七回日本醫學會總會の盛況

演題の多き事空前と稱せられ
隣邦の佳賓袂を連ねて出席す

所謂學會日和、霧れず曇らず、聊か眠氣を催ふす程のか暖さは陽氣の故として、申分なき四月一日は、第七回日本醫學會に幸ひした。

定刻九時あるに、熱心なる會員は七時過ぐる頃より陸續東大の正門より流込んで、さしもの安田講堂も時餘にして文字通り立錫の餘地なく此の敷三千を過ぐるに數百註される盛況である。

定刻九時、時間はいとも正確に、第七回日本醫學會第一日、總會の開始を告げる振鈴が響き渡る、四千の會衆片唾を呑んで待つ程もなく、佐藤會頭先づ壇上の椅子に倚り、續いて岡田副會頭、北島準備委員長等、石黒子爵以下の名譽會頭、錢青源氏以下の支部副來賓特別講演を爲すアシヤール氏等を所定の位置に導き、斯くして席定まるや、北島準備委員長壇上に進み

これより第七回日本醫學會を開會し、佐藤會頭の開會辭
あるべき旨を宣し佐藤會頭を促せば、諸般そのもの、如き會頭は破れる許りの大拍手に迎へられて、例の如き莊重の態度演説を以つて、左の如き開會の挨拶を述べられた。此の間僅に八分、會頭の演説が以て我が學界を指導すべきものなるべしと期待して居た人があるとすれば、外れたるの感なきに非ざるも言外の餘韻

會頭の人格は今更乍ら冗舌を待たずして、此の榮ある大會の幕を落すに充分であつた。その要旨は左の如し。

佐藤會頭演説

閣下並に諸君茲に第七回日本醫學會の開會式を舉ぐるに際し、來賓諸賢の御眞意を察せました事は、至大の光榮として感激に堪えざる所でありませぬ。

特に友邦 中華民國より斯道の權威數名の御登壇を蒙りましたことは、本會の最も光榮とする所でありまして、只に東洋醫學の發展に大なる影響あるのみならず日支親善上から見ても誠に喜ぶべき事と思ひます。此の意味に於て諸君に對し深厚なる敬意を表します。

我國現代

醫學の發展に關しましては、彼の我國西洋醫學の先哲を稱する杉田玄白、前野良澤氏の苦心に負ふ所最も多く寧ろ其の淵源は、其の當時に胚胎して居るものなりと云ふも、敢て過言でないと思ひます。爾來先哲等の辛苦甚苦非常なるものでありまして居ります。先達國との交通が絶へたに於ては、醫學の發展甚だ遅れたるものであります。然るに其の後約百年を経て明治維新の異議に基き、諸般の施設其の面目を一新せんとするの氣運に際し、我醫學者は文化移植の先驅者として、斯學の發展普及に非常なる奮闘努力をなしたものであります。

して、斯學の發展普及に非常なる奮闘努力をなしたものであります。

以來茲に 六十年途に今日の盛況を見るに至りましたことは御同慶の至りと思ひます。併し乍ら我國の醫學は之を大觀致しますれば尙ほ先進國の模倣たるの感を免かれぬ點が、多々あるのであります。然るに彼の世界大戰が、我國醫學の進運に至大なる刺激を與へまして、之が爲めに俄然長足の進歩を見るに至りましたの分ならず、私が殊に喜ぶ可き現象として考へますのは、我國に於て獨立的研究の氣運を醸成して、今や正に旺盛を極めんとする傾向であります。爾來、公表せらるゝ所の研究業績著しく其の數を増して、又世界に誇るに足る可きもの増しませず、又等のごときは夙に諸君が御承知の通りであります。而して今や正に一步進んで、先進國を凌駕すること將近に近きに有らんとする感があります。實に快心に堪えざる次第であります。

繼て思ふ 醫學の進運に伴ひまして、其の領域の益々擴大するに従ひ多數の専門學科に分裂すること云ふ事は自然の結果であつて、又、此の如くして各専門家が力を分ちて、更に其の滋養を究むるに非ざれば斯學の進歩を期すること甚だ困難であらうと思ふのであります。然れども又一方より考へますれば、一の専門と他の専門學科との間の聯絡と云ふことは極めて重要な事柄であつて、研究の進むに従つて、益々此の聯絡の必要を感ずるものであります。そこで此聯絡を圓滑ならしめんとするの趣旨に基きまして明治三十四年第一回日本醫學會を開會せられたのであります。爾來年々開會すること二十年間を重なること六回でありまして、茲に諸君と相會して第七回日本醫學會を開會することになつたのであります。尙當學會は學術の進歩に鑑みまして、之れを二十四分科に分ちました。而して其全分科を通じて、發表せらる可き業績の數は、或る分科に於て其數に隨分制限を加へられたるにも係り尙ほ約二千の多きに達して居ります。本會の盛況は

此の一事を以て推知するに足ると思ひます。

扱て本會の將來に就きましては、益々隆盛に赴くことを切望するは素よりであります。私は個人として尙ほ二個の希望を抱くものであります。其の一は日本醫學會の組織の變更であります。御承知の通り、當學會は日本醫學會として恰も獨立の會の如き、觀があるものであります。其の實は諸専門學會が同時に同所に於て開會せられたこと云ふことに止まり、所謂聯合醫學會の形をなして居るものであります。獨立の言に缺く所多しと思ひますから、近き將來に

名實の一致したる日本醫學會に組織を組み直しては、如何と思ひます。

希望の第二は、近き將來に於て日本醫學會が主體となつて國際的醫學會を或る時に開會してはどうであるか云ふ事である。御承知の如く昨年極東熱帯病醫學會が開會せられ、又本年の秋季に汎太平洋醫學會が開會せられ、開會せらるゝのであります。如斯く續々國際的學術會が開かれる氣運に鑑みすれば我醫學界に於ても國際的學會を我國に於て、開會すること云ふことは、

敢て無謀の舉なりと云ひ繼しと考へます。此の事は、東京醫學雜誌社協會に於ても盛んに希望して居ることを云ふことでありませぬ。然し我國の地理上の關係から困難なることが随分多いであらうと思ひますからして、其の時期の如きも深甚の考慮を要することは申すまでもありません。

終りに臨みまして特に申上げた事は第七回日本醫學會の成立並に舉行に就きまして東京帝國大學總長閣下、東京府郡區醫師會、商科醫師會、數多の専門學會東京醫學雜誌社其他醫學に縁故ある諸團體より厚き御同情を寄せられ、多大の御後援を賜りたることに對し深甚なる感謝の意を表します。

特別講演に入る

アシアル氏 會頭の演説終るや五分間の休憩となり、續いて特別講演の第一席として、豫て日佛の學術的交際の使命を帯びて來朝中なる巴黎醫科大學の教授アル・アシヤール氏は、北島博士の紹介に依つて壇上の人となり、別項の如き演説を板倉武博士の通譯に依つて行つた。而して講演の最後は

此の第七回日本醫學會に列席し、講演を爲したことに依つて、私は衷心よりの喜びを禁じ得ない、即ち私が貴國を訪れた使命はこれに依つて満足に盡し得たと考へるからである。

喜びの色を顔に漲らせて聲を高め更に日本に於ける數特と、種々の特色を有する優美な印象に付て語り、一層の提揚を高調して演説を結んだ。此の相應しき賓客に、此の語を發せしめたことは恐らく、今回の學會中の收穫として最たるものであらうとの聲が、そここより漏れた。拍手の暫らく鳴りやまなかつたのも宜である。

朝比奈藥學博士：續いて、昨年恩賜賞の光榮に浴した東大藥學科の教授、朝比奈泰彦博士は、自他相許し、他人に一指を染めさせずとさへ稱へられる「和漢生藥」に就いてその淵源を傾けて、約三十分餘に亘つて演説した。

午後は更に賑ふ 午後よりは會衆の來る數も刻々に増して、學會の盛大を觀す聲に満ちた。正一時、京大の斬鑿として聞へる松尾嚴博士は、得濃の色案問題に提げて起ち、

午後よりは會衆の來る數も刻々に増して、學會の盛大を觀す聲に満ちた。正一時、京大の斬鑿として聞へる松尾嚴博士は、得濃の色案問題に提げて起ち、

午後よりは會衆の來る數も刻々に増して、學會の盛大を觀す聲に満ちた。正一時、京大の斬鑿として聞へる松尾嚴博士は、得濃の色案問題に提げて起ち、

専ら京大に於て晋寧教室の同學二十
五名の爲せる實驗に依りて述べん。
お國自慢と云はば云へも、自信に
満ちた態度を以て、論じ去り論じ來
たり、一時間餘を以て結ぶ。

續いて東大の老雄にして斯學の權
威を以て許さるゝ土肥慶藏博士は、
驅微療法の變遷に付ての題下に講演
を開始した。

素より其内容や講演に於て多く言
ふを要せざる所、近く停年勇退の期

各分科會一齊に開く

學會第二日目以後の景況

▽第五分科會

(第六回病理學會)

第五分科會たる、日本病理學會第
七回總會の第一日は病理教室講堂に
於て開かれた。

定刻八時、直ちに長與會長、開會
の辭を述べ、庶務會計報告並に議事
を午後後に譲り、物故會員三氏に一同
起立弔意を表し演題に入り頗るの一
萬千里振りを示した。演題第十六番
までは會長長與博士が座長を勤め、
四題を一括して質問討論を行はしめ
たが、結局注意を引く質問なく、各
演者順調に演了、次いで座長山極博
士に代る。入場者多く滿堂立錫の餘
地なき盛況を示す。十一時四十分

▼X線放射線丸の組織學的研

北研病理福井氏を午前の殿りとし
て、午前の講演全部を終り、次いで
ウイルヒョウ氏紀念賞授與式を行つ
た。受賞者の氏名並に演題は左の如
くであつた。

研究

中木完二(京都府立醫大)

倉尙貞(同上)

に通つて居る人も見へぬ元氣さ
は、會衆の等しく驚嘆する所であ
る。土肥博士の講演は殆ど二時間
近く、第一日の特別講演四題を終へ
て、北島準備委員長が挨拶と初日以
後の注意を述べたのは五時を過ぐる
三十分頃であつた。

尙次回開催地として、候補に挙げ
られて居るのは仙臺、福岡の兩市で
あるが、最後の決定は四日開催の評
論會に於て行はれる由、従つて會
長以下幹事の氏名も本稿締切り迄は
不明であつた。

▼第六分科授賞

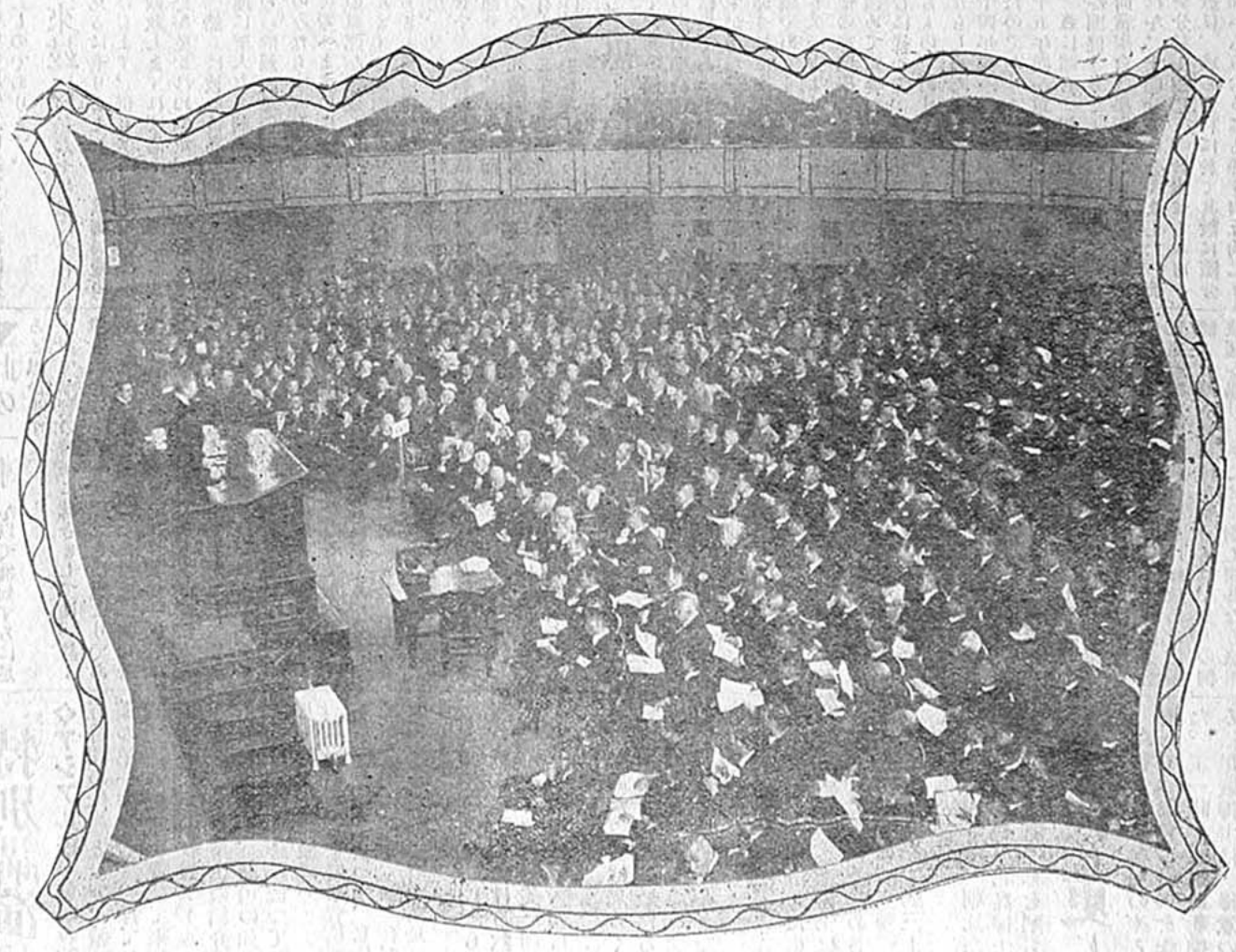
藤浪鑑博士と決定
四日開會の第六分科會病理學會
の授賞論文は京大藤浪博士並に鈴江
恢氏の「腫瘍の續發性増殖に關する
病理の補遺」である。審査要旨左の如
し。

腫瘍續發性増殖に關する病理
の補遺(家鷄肉腫に於ける實
驗)

醫學博士 藤浪 鑑

鈴江 恢

腫瘍の發生原因の多種多様なことは
論争の餘地無かるべき、當今尙悪性
腫瘍の原因を特殊發病性小有體に歸
せんとし又は悪性腫瘍、就中癌腫の局
所性を疑ひ、全身症(中毒症の如き)
の一分現象なるが如く論ずる學者あり
此致に當り腫瘍の生物學的性狀に於て
人類以下哺乳獸とは大に其趣を異にす
るが如き家鷄肉腫に於て其門下と共に
既に研鑽を積まれる藤浪博士が今回又
鈴江氏と共に實驗上挙げられる新所見



(左況盛のこは見) 演講の授教ルヤシア

第一、皮下、筋肉等に移植粘液肉腫を有する家鳩の肺(及肝等)組織片に轉移の證明されざる物を健康家鳩の皮下筋肉内に移植するときは其多數例に在りて原腫瘍と同型の肉腫の發生すること。

第二、粘液肉腫の腫瘍と隔てたる臓器組織に異物を挿入するとき之を圍みて新生する肉芽組織より粘液肉腫の發生せる多數例の實驗されたること。

の如きは、(第二)著者の所謂『腫瘍起原』なる者の有機小體なるや、化學的物質なるやを家鳩肉腫に就て實驗調査する上に於て好手段を與ふる者云ふべく、(第三)右の新所見は之を哺乳獸の肉腫或は家鳩及哺乳獸の癌腫に於ても實驗され得るや否、(第四)隨て又著者の所謂『腫瘍の病理は單に局所だけの問題では無い』との主張に對し吾人をして肉腫即結核性慢性膿瘍と癌腫即上皮性慢性膿瘍との間に多少懸念を異にする者無きやを研索するの良方法を示すものと云ふべく、常に著者等の腫瘍増殖態度乃至腫瘍形成の病理のみならず肉腫發生原因學研究上貢獻する所大なりと謂ふべし。

大正十五年四月四日
社団法人 協研究會

右審査委員
山極勝三郎、佐多愛彦、長與又郎、塩田廣重、今裕

▽第七分科會

(日本内科學會)

第二十三回日本内科學會總會は、日本醫學會の第七分科會として、二月午前八時より東大工學部大講堂に於て開催せらる。

定刻に先だつて會頭佐藤恒丸博士理事大瀧潤家博士以下役員一同着席八時を過ぐる事五分、會頭佐藤博士壇上に登り、

「是れより開會致します。本年より内科學會は組織を變更して社団法人とな

り、公益法人として學術の研究を遂げ益々新界に、貢獻する事となりました、就きましては各位に於かれても一層奮勵努力せられむ事を望む次第であります、扱て昨年の秋前會頭山田鐵藏博士が不幸にして病魔に冒され、不歸の客となりられた事に各位と共に悲しみに堪えない處であります。依て茲に一同起立の上弔意を表したいと思ひます。

ご挨拶するや、満場總起立の上、肅然として弔意を表した。

續いて大瀧理事壇上に起ちて左記の如く會務を報告せられる。

「現在の本會員は二千四百五十五名であつて、前年に比し九十八名を増加して居ります。會務の内で特に申上げて置きたい事は、只今會頭より御話のありました通り本會の組織變更の點であります。昨年四月一日本會の第二十二回總會を福岡市に開かれた際、本會の組織を變更して社団法人となすの件が可決せられましたので、前會頭武谷廣博士より定款審査委員十名が指名され、同月二十三日第一回審査委員會が開かれました結果、山崎法學士に定款の作製を囑託され、七月十六日に至つて之が脱稿を見ましたので、即時申請書と共に設立委員一同署名捺印の上之を携帶して文部省に出頭し、當局と種々折衝の結果、八月三十日に設立申請書が文部省に受理されまして、十月十四日に文部大臣より「社団法人日本内科學會を設立の件認可す」といふ指令が下りましたので、直ちに委員會を開いて理事、幹事の専任を行ひ、以て今日に至りました。

次で細野幹事より、會計報告があり、從來日本内科學會が所有せる財産は、之を一切財団法人に變更せる同會へ引續く由を述べて議事に入り先づ、

- 一、次回開催地選定の件
- 二、次回會頭選定の件
- 三、次回宿題選定の件

を議題として、大瀧理事より前夜開

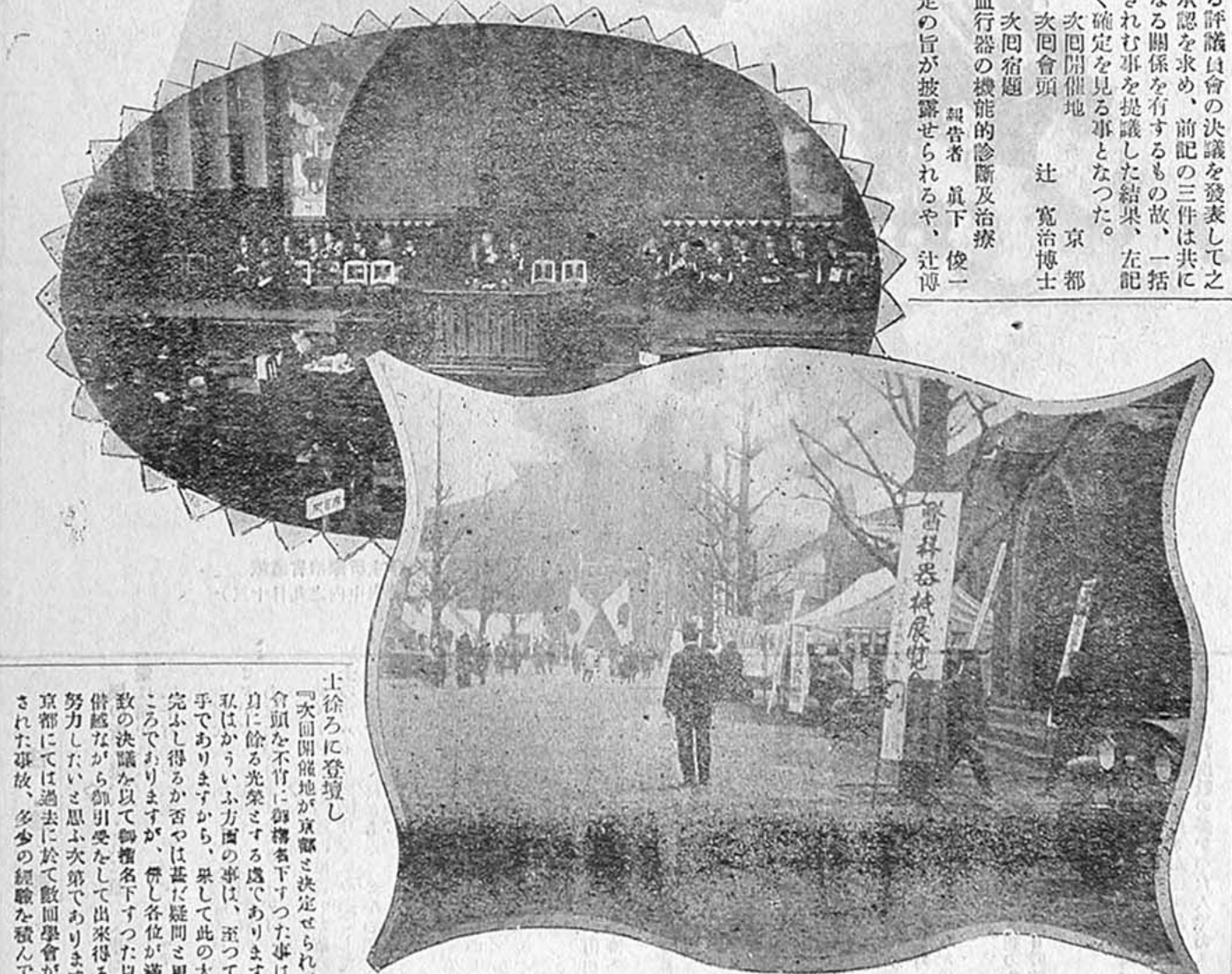
日本醫學會新報 第百九十二號

會せる評議員會の決議を發表して之が承認を求め、前記の三件は共に密接なる關係を有するもの故、一括附議されむ事を提議した結果、左記の如く確定を見る事となつた。

- 一、次回開催地 京都
- 二、次回會頭 辻 寛治博士
- 三、次回宿題 血行器械的診斷及治療

報告者 眞下 俊一
右決定の旨が披露せられるや、辻博士

士博吉三藤佐頭會のあつつべ逃な辭の會開



況情の前場々會學醫本日

士徐ろに登場し
「次回開催地が京都と決定せられ、次回會頭を不肖に御指名下さつた事は誠に身に餘る光榮とする處でありまして、私はかういふ方面の事は、至つて不得手でありませうから、果して此の大任を完ふし得るか否やは甚だ疑問と思ふところでありませうが、併し各位が満場一致の決議を以て御指名下さつた以上は借感ながら御引受をして出来得る限り努力したいと思ふ次第であります。京都にては過去に於て數回會が開催された事故、多少の經驗を積んで居り

ます故、不満足ながらどうやら遣つて行けやうかと思ふのであります。御承知の通り京都は、山紫水明の都であり名勝勝蹟に富み、於て或は各位が學術研鑽の勞を慰するに足るものがあらうかと思はれる。殊に比較の如きは今日にてはクイブルカリーの開通によつて僅々十分間にして、其の絶頂を極める事が出来るのであります。斯の如き次第でありますから、各位にも當つて御参加を希ひ、以て出来る限りの盛會を期したいと思ひます。

「謙讓なる挨拶を述べて降壇するに續いて恩賜記念賞金受賞式が舉行せられ、先づ佐藤會頭起ちて左記の賞記を朗讀せられる。

賞記

辻寛治氏が日本内科學會第十七回、十八回十九回、二十回、二十一回、二十二回の各總會に發表せられたる論文「甲狀腺に関する研究」に對し授賞規定第七條に依り恩賜記念賞金を授與す。

大正十五年四月二日

社團法人 日本内科學會

右朗讀終るや辻博士佐藤會頭に麾かれて登壇し、會頭より賞記並に賞金を授與せられ、滿場急激の如き拍手を以て之を祝し、辻博士は學徒として最大の榮譽を蒙り、會頭及び會員席に一併して着席、之にて式を終り、愈々午前九時より會員の演説に入つたが、演題の多きため會場を二分し、工學部大講堂を第一會場同部第一講堂を第二會場とし、前者は十七題、後者は十六題を演了して正午休憩、引續き午後一時より講演を開始する筈である。(二日正午)

第九分科會

(第二十七回外科學會)

同會第一日は去る二日午前九時より、東大法律部第三十番のバツク講堂に於いて開催、既に八時半には會長近藤次繁博士出席し、係員を督

して準備が進められる。鹽田東大教授、茂木慶大教授、佐藤太平、渡邊房吉、楠太等諸博士の顔も見へ定刻には六十餘名の會員が出席した。會長として開會の辭を述べ、ことゝ洵に光榮とするものである。種々行届かない點は深謝する。會場其他の設備についても、震災の創痕未だ癒えざるころと御諒解を乞ふ。

現在の會員は二千五百六十六名、新入會員百四十三名、退會者五十六名、本期に於ける死亡者は五十二名である。此の死亡會員に對して起立して、弔意を表したい。

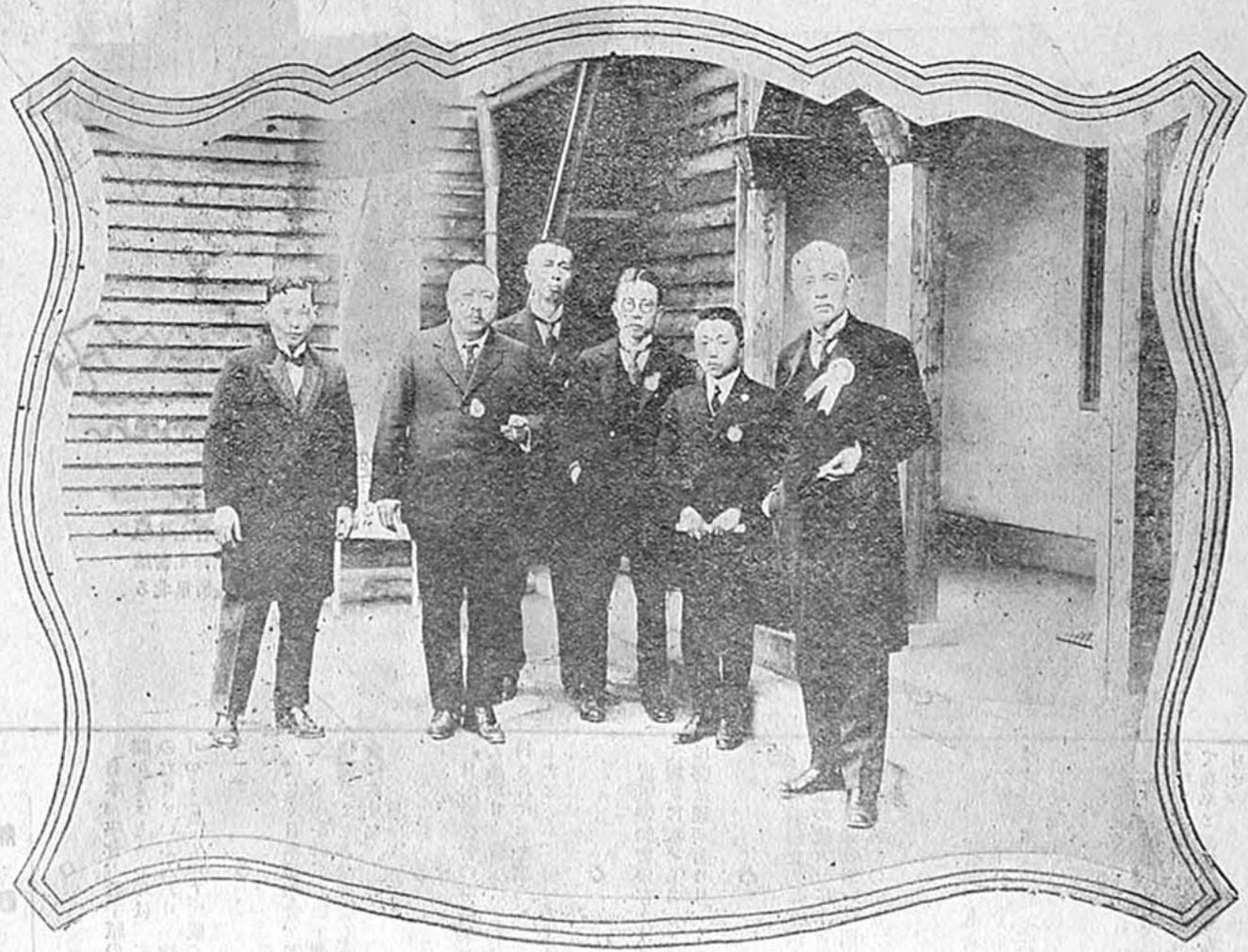
と述べて全員起立肅然として敬弔し尙ほ會計の報告は例の通り表として掲げたを以つて御覽の上御承認を得た。次同開會地の選定、會長選定、宿題選定の件、其他重要なことは御同意を得て、會員の出揃ふた午後八時に於いて定めた。

演題数は昨年御承認を得た通り六十題と定めた。本年度の申込は七十二題であつたが、遺憾ながら十二題は理事者に於て適宜の處置を取つた。此の趣旨は出来るだけ充分なる時間を與へ、質問、討論等も完全に行ひたいからである。而うして今年選んだ演題は宿題にも密接な關係があるものであるから充分御諒解あらむことを希望する。

尙特に諸君に報告したいことは、本會史に關係ある事柄ではないけれども然し殊に密接な關係ありと思考せらるゝので、敢へて申上るのであるが、豫て國際外科學會から、我が日本からも、國際外科學會代表者十三名以内を派遣しないがと案内を國際外科學會の幹事から九州大學の三宅速教授の下へ通告して来たことである。

依つて三宅教授が數氏と御相談の結果我が國の外科の代表者「教授といふ資格の條件があつた」と記憶するが十三名選ばれて其の會員となつた筈である。

尙今回羅馬に於いて國際外科學會が開催せらるゝに當り、我が國は代表者



氏宋・氏豊・氏錢・氏冷・氏舒・士博藤佐りよ右、表代那支と頭會藤佐

NIPPON IJI SHIMPO

No. 192 April 4 1926

3, Yaraicho Ushigome, Tokio.

CURRENT COMMENTS AND NEWS OF THE JAPANESE MEDICAL WORLD.

Conference of the Directors of the Sanatoriums:—On the coming VIIth session of the Japan Medical Association the 8th section has been spared for the study of tuberculosis to which all the directors of the governmental sanatoriums will attend. The minister of the home affairs decided to hold the conference of the directors either before or after the session of the Association. There will be several topics to be discussed before the conference presented by the home ministry, besides some acts which will be moved by the members.

The VIIth Session of the Japan Medical Association:—As it was scheduled, the VIIth session of the Association will be held in Tokyo from 1st to 5th of April. The first day will be the general meeting, before which President Dr. Sankichi Sato will give an opening address. Dr. Ch. Achard of France, Drs. Yasuhiko Asahina, Iwawo Matsuwo and Keizo Dohi will give lectures. The 2nd—4th days will be dedicated to the section meetings. The fifth day will be the last general meeting, before which Drs. Genichi Kato and Rempei Sassa will give special lectures. The report of the business transactions of the Association will be made by Dr. Taiichi Kitashima and the closing address by Dr. Waichiro Okada, Vice-president. There will be several excursions for the members and exhibitions of medical apparatuses and drugs.

Conference of the School Sanitary Officials:—The minister of education gave order to the school sanitary officials to hold conference on the 19th-22nd day of April in Tokyo. There will be several topics presented for discussion before the meeting by the minister, besides several others which will be presented by local governors.

Collegiate News:—New honours.—The faculty meeting of the Kyoto Imperial University agreed to give degree of M. D. to the following four scholars: Harukichi Chiga, Keizo Inouye, Denjin Miyamoto and Kimiyuki Hirakawa; the faculty meeting of the Tohoku Imperial University agreed to give honours of M. D. to Shyuzo Kimura.

Personae:—Sanitary Officer Dr. Minoru Katsumata of the Ministry of Home Affairs has been despatched to attend the International Health Conference and to the Vth session of the division of health of the League of Nations, which will both be held in Paris.

Dr. Shigeru Kusama, Member of the Kitasato Institute for Infections Diseases and professor of pathology of the Keio University, has been despatched from the Kitasato Institute to attend officially at the opening ceremony of the public health school at Warshaw. He will call the European and American Universities and laboratories and be back toward the end of September this year.

Dr. Yasuzo Imura, health officer of the Ministry of Home Affairs has been despatched to investigate the public health work in all Americas and Europe by the Minister.

Dr. Kikutaro Ishiwara, professor in the Tokyo University has been despatched from the University to inspect medical education in Europe.

Dr. Ichitaro Oikawa, director of the bacteriological laboratory of the Metropolitan Policemen General's Bureau has just resigned from his position on account of his illness. The vacancy will be filled by some or other candidates before long.

として三宅速教授を提出し、現に渡歐中である。其の會に於て我が日本會員の切望せる一つの提案として、嘗て國際外科學會から除名されたところの獨逸兩國の外科の人達を再び同會會員に加盟することの出来るやうに、さういふことを提唱したのである。聲明書は一々読み上げると長くなるから、序と末文とを朗讀するが、

聲明書

茲に第七回國際外科學會、羅馬に於て開催せらるゝに當り、日本代表は獨逸二ヶ國の加盟案を提起し、敬愛する各國代表諸子の御賛成を願はんことを欲す。(中略)加ふるに親近傳ふるに會議の議決により、獨逸二箇國を除名せりと聞く、此の秋に當り我が外科學會が、博愛將又平和の觀念より、獨逸二ヶ國を加盟せしむるは吾人の熱望に堪えざることを以て、萬場一致の賛成するべきを確信して

敢まざるなり。此の聲明書を各國代表に頒布して賛成を求めたところ、新聞等でも御覽の如くロカルノ會議があつたにも拘らず、勢力の争等よりして未だ獨逸が當任理事となることを決しないやうな有様で、此の日本外科代表の提案に對しても、佛蘭西のさる醫師から、少しく手剛い反對説もあつたさうであるけれども、併し我が三宅代表の御盡力によつて、四海同朋、言を換れば、學問に國境なしの理想を如實に示されんことの一刺も速く實現するやうな新つて敢まない次第である。本問題に必しも本會の決議に基づいたものではないが、併し此の趣旨には諸君も定めて御賛成なるべく、且つ間接的ではあるが密接なる關係もあるから特に報告した次第である。急激の如き拍手を浴びて座長席につき、竹林氏不參の爲め第二の案外線の診斷的應用に就いて佐藤太平氏より講演に移り、終つて、楠

博士がこれを追加し、次ぎに「ヤトレンソクテン」に就いて、高島令三學士の報告あり、漸次プログラム通り進んでいつた。因みに次回開催地及び次回會長は午後になりて次の通り決定した。

▼次會開催地 (京都市)
▼次回會長 鳥鴻隆三博士
▼宿題 腎臟外科に就て

學會拾ひ書

一言で盡るであらう。古人は流石にうまい事をいふ。船頭多ふものは責任の地位に在らずその地位にあるものは譲り合ひてお座なりばかりして居る。

▼會演説許りで式を終るのは新機軸の積りか知らぬが、記者、購る眼からは瞭かに失敗である。妙くとも首相、内相々相、而して市長、此の四者の歡迎辭を會衆に呈せしむべきである。況んや、外資のあるなら、會演説も印刷にして渡した方が宜しからう。やに處ての演説も印刷にして演説禁止としたらよからう。

▼前回の荒々東京大總長、昨秋の北里醫學會頭が夫々特色あり且つ愉快なる演説であつたことを想出するばかりであつた。

▼アラン・ド・カステル演説は、所謂外交辭令の交換と云へば是なり、所當り脚りのない所、適當の機會且つ適當の人、と申上げて置く。朝比奈、松尾、土原三博士

共適當。演説の出来榮も可。就中土肥氏は流石に出色であつた。今更停年で教授をする人とは見へる若々しさがあつた。

▼學會の大懇親會を歐舞夜座として、八百の衆席を雇約して、刺ればよいが、心配して夫人迄獎勵勸誘して居たのが、満員となつて断つて人が八百人あるといふのは、嘘のやうな事實である。委員長宮本伴、博士博士大ホク。

▼寄附者優待券を以て會員の待遇を要求する人、準備委員の記章で記念品を受やうとする人、様々な笑聲や苦笑が隨所に起る。

▼舊友、舊知、めぐり逢ふのが學會の樂しみの一である。「君先「たなご」云へばは池の端、天神に昔馴染を云々の相談も直ちに成立する。時は九十の春光正に晴にして、世は泰平である。

▼東叡山寛永寺の鐘、櫻の梢になつて第一日の閉ぢたのは午後五時半。(第一日夜)